

「校内研修プログラム」の活用事例
～共通理解を進めるための校内研修～

【活用するシート】 Ⅰ－２ 実態把握、支援方法の検討			研修時間
			２０分間
主 な 内 容			
○ 対象とする子どもの実態を把握し、本人のよさを伸ばす手立てを具体化する研修			
手 順			
準 備		・「Ⅰ－２実態把握、支援方法の検討」シート ・学年の中で気になる子どもを一人特定し、その子どもの状況について、「１ 実態把握」欄への事前記入（個人）	
タイム テー ブル	3分	１ 研修のねらいの確認 ・子どものよさや困難さについて整理・分析する方法を体験することにより、共通理解を図った指導や支援の在り方について考える。	
		２ 研修方法の説明 ○ グループ協議の進め方について ・同じ学年を担当する教師でグループを編成し、子どもの「よさ」を伸ばす方法について考える。	
	10分	３ シートを活用した演習 ① グループ協議 ・「長所」「がんばろうとしていること」をグループで交流し、その子どものよさを共通理解する。 ・「長所」「がんばろうとしていること」から1つ焦点化し、そのよさを伸ばす支援の方法を考える。	
	5分	② 全体交流 ・各グループから焦点化したよさとそのよさを伸ばす方法について発表する。	
		ここがポイント！ 子どものよさを伸ばす視点に立って、指導・支援のポイントを焦点化することが大切です。	
		４ 振り返り・まとめ ○ 整理された項目について、全体で確認する。	
事後の取組		○ 振り返りを基に実態把握を行う際の留意点を整理し、配付する。 ○ 次に「Ⅱ－１個別の指導計画の作成」と関連させて取り組む。	

研修シート(試案)
Ⅰ－２ 実態把握、支援方法の検討

- ◎ ねらい
実態把握や支援方法を検討し、指導や支援の留意点を考える。

1 実態把握

この項目や内容を参考に、気になる子どもの実態把握をする。

項目	内 容	該当する場合は○
長所		
がんばろうとしていること		
聞く	全体への指示や説明を聞いて理解することが難しい	
話す	話しているうちに内容がそれることが多い	
読む	文字は読めても単語や文として読むことが難しい	
書く	板書を書き写すのに時間がかかることが多い 細かい部分を書き間違えたりすることが多い	
計算する	計算するのに時間がかかることが多い 答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くことが難しい	
推論する	図形を描くことが難しい 文章題を解くことが難しい	
注意集中	気が散ることが多い 最後まで課題に取り組むことが難しい	
多動性	じっと座っていられずに立ち歩くことが多い	
衝動性	質問を最後まで聞かずに答えてしまうことが多い	
人とのかかわり	相手の感情や立場を理解することが難しい	
コミュニケーション	自分がわからない状況や困っていることを相手に伝えることが難しい	
興味の範囲	興味・関心のある対象に限られ、特定のものへのこだわりが強い	
特異な行動	身体の動きのぎこちなさや手指の不器用さが目立つ	

(参考 「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒等に関する調査」の項目)

2 支援方法の検討

上の表の項目を踏まえ、支援の方法について検討する。

※ ポイント～当該の子どもにとって、最も困難なことのみに目を向けるのではなく、自立してできることをさらに伸ばす観点から、支援の方法を検討する。

3 振り返り（実態把握と支援方法の検討を通して、留意点として考えたこと）

- どうしても課題ばかりに目が行きやすいが、協議を通して子どものよさやがんばりを考えることの大切さについて、理解することができました。